

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	猶原 順
所属機関名	生命科学部 生物科学科
職位	教授
在籍年	39 年

教育の責任

生命科学部生物科学科環境科学コースに所属し、専門科目である環境分析化学を中心とした教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は専門基礎関連科目(環境科学・生活環境学・分析化学・環境科学実験、卒業研究など)の担当やゼミ生の研究支援である。

教育の理念

環境科学は、自然環境と人間活動の相互作用を、理学・工学・社会科学を横断して解明し、環境問題の理解・評価・解決を目指す学際的分野である。自然環境と人間活動の関係を科学的に理解し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる人材を育成するため、知識理解＋実践力＋課題解決力を育てる教育方法を行う。特に、講義・実験・現場・議論を組み合わせ、学生が「自ら考え、説明し、解決策を提案できる」力を育てる。

教育の方法・方針

環境科学分野における教育では、科学的根拠に基づいて環境問題を理解・評価し、解決策を提案できる能力の育成を基本方針とする。そのため、講義・実験・討論を有機的に組み合わせ、学生の主体的な学びを促進する。体系的講義による基礎力の養成、実験・実習による理解の深化、データ解析能力の育成等を行う。これにより、学生が科学的根拠に基づき環境問題を理解し、主体的に解決策を考えられる教育を実践する。

教育の成果

担当科目の到達度は小テスト、中間試験および定期試験を数値化し、GPA に反映させる。90%程度の学生が C 以上の成績で当該年度で修了できるように努力する。事前事後学修時間が 1 時間以上の学生を 8 割以上とし、演習や事後学修を通じて理解を深められるツールを用意する。授業アンケートでは「満足」から「ほぼ満足」と答えた学生が約 9 割を占めているため、責任科目の到達目標は達成できていると考えられる。授業内容の不明点については、授業中あるいは授業終了後もオフィスアワーを活用した対面やオンラインで質疑応答した。

今後の目標

環境科学分野における教育の質を継続的に向上させ、学生が科学的根拠に基づいて環境問題を評価し、社会に貢献できる人材へと成長することを目標とする。基礎知識の定着から、実験・課題解決型学習へと段階的に理解を深める。最新の研究成果や実験手法を授業に取り入れ、教育と研究を相互に行うことで、学生の探究心と専門性を高める。討論や発表の機会を増やし、学生が自ら考え、説明し、行動する姿勢を一層育てる。教育内容・手法を継続的に改善し、研究と教育を融合させながら、科学的根拠に基づいて環境問題に主体的に取り組める人材の育成を目指す。

根拠資料

2025 年度授業アンケート秋：環境科学
2025 年度授業アンケート秋：生活環境学